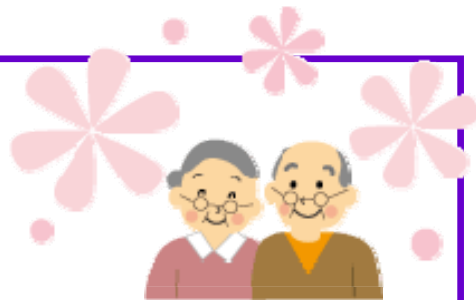


成人の肺炎球菌感染症はワクチンで予防！

どんな病気？

近年、肺炎による死亡が増えており、平成23年には脳血管疾患を抜いて死因の第3位になりました。この肺炎の原因菌で最も多いものが肺炎球菌です。



肺炎による死亡者は高齢者で多く、元気な高齢者でも体調不良などをきっかけに重症化する例があります。特に、インフルエンザに感染した後は肺炎にかかり易く、重症になり易いことが知られています。

肺炎の症状は発熱、咳や痰で、ひどくなると呼吸困難も現れます。また、高齢者では症状がはっきり出ない場合もあり、注意が必要です。

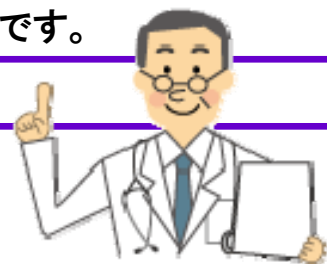
感染のしかたは？



肺炎球菌は健康な人でも鼻やのどの奥に常に付着していますが、免疫力が弱まっている時などに、肺炎の症状を引き起こします。

患者からは、咳等のしぶきによる飛沫(ひまつ)感染でうつるので、人混みでは感染する可能性が高くなります。潜伏(せんぷく)期間は1~3日と短いです。

ワクチンを受けておくと？



予防のためにはまず、手洗い・うがいをしっかり行いましょう。インフルエンザ等に感染し気道粘膜が弱っていると、肺炎球菌感染症にもかかり易くなってしまいます。手洗いやうがいは、この点からも大切です。

さらにワクチンを受けると、肺炎球菌感染症の感染・重症化の予防効果が期待できます。1回の接種で5年間は効果があるとされています。特に高齢者には、ワクチンの接種をお勧めします。

ワクチンを受けるには？



23価ワクチン(商品名:ニューモバックス NP)を皮下または筋肉内に1回接種します。(65歳以上の場合、子供が受ける13価ワクチンでも接種可能です。)

なお、平成26年10月に高齢者を対象とした定期接種(23価ワクチン)が開始されました。かかりつけ医あるいは横浜市予防接種コールセンター(045-330-8561)にお尋ねください。

